



地域で支えよう 小学生のスポーツ少年団活動

☎ スポーツ振興課 ☎ 30-0297

平成29年4月からいよいよスポーツ少年団の社会体育化が本格的にスタートします。
社会体育化により、子どもたちのスポーツ環境にどのような変化が期待できるのでしょうか。

「学校団」から「地域団」への移行

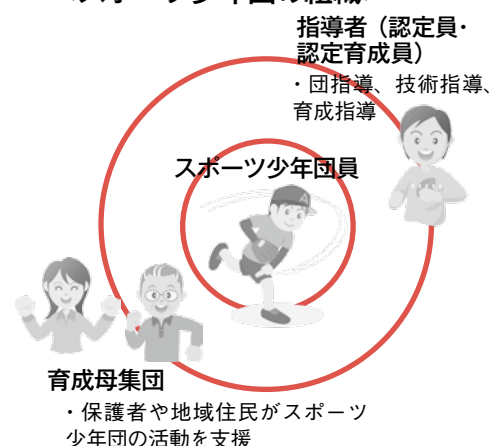
現状のスポーツ少年団は大きく「学校団」と「地域団」に分けられます。

学校団とは、これまで小学校において部活動と呼ばれ、教職員が指導してきたスポーツ少年団活動です。これに対し、サッカーやスキージャンプ、アルペン、柔道、剣道のように学校以外で活動を行っていたものが地域団にあたります。地域団では、地域の指導者が保護者と協力しながら少年団を運営してきました。

社会体育化とは、学校団を地域の指導者が中心となり指導する活動（地域団）に変えていくことです。



<スポーツ少年団の組織>



移行後のスポーツ少年団の形

地域性やこれまでの活動を考慮して移行されます。

多くの学校団は、そのまま地域団に移行する見込みです。（図1）

今までの学校団では団員不足により団体競技ができない場合もありましたが、これからは合同チームをつくり活動することもできるようになります。（図2）

従来からの地域団に変わりはありません。指導者がいれば、新しい少年団を立ち上げることもできます。（図3）

将来的には、自分のやりたいスポーツを行うために、他の学校の地域団に入団することも可能になり、子どもたちのスポーツ活動の選択肢が広がります。

図1

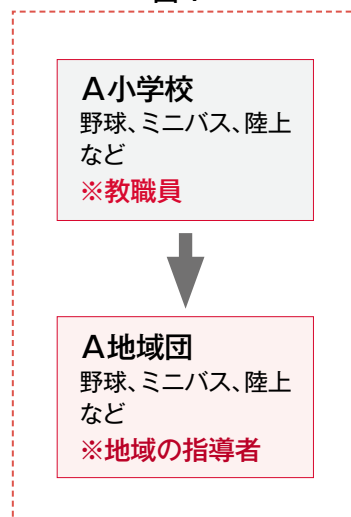
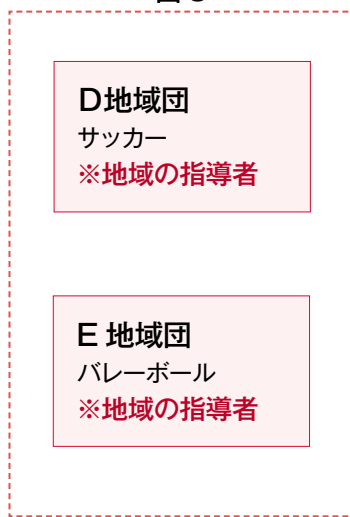


図2



図3



育成母集団

「育成母集団」は、少年団のルールづくりやスケジュール調整、試合の応援、行事への参加など、一年を通して活動をサポートする組織です。

保護者をはじめ、地域の方も参加し、育成母集団をつくり、子どもたちがやりたいスポーツにのびのびと取り組める環境を整えていくことが大切になります。

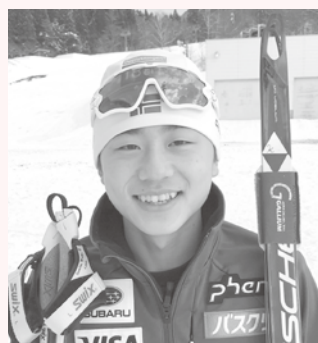
学校の役割

各小学校はスポーツ少年団担当窓口を設け、少年団との連絡調整や相談役としてサポートすることになります。スポーツの指導は地域の指導者が行うことになり、教職員も地域の一人として子どもたちを見守ります。

みんなでサポート

子どもたちがスポーツを通して、たくさんのお友だちと学べるように、家庭・学校・地域が協力してサポートしていきましょう。

インタビュー Interview ～鹿角から世界へはばたけ～



こうだい
木村 幸大選手
(花輪第二中学校3年)

1月30日～2月5日にアメリカ・パークシティで開催される「2017ノルディックジュニア世界選手権大会」に、鹿角ジャンプスポーツ少年団の木村幸大選手（花輪第二中学校3年）が、複合競技の日本代表として出場します。中学生として唯一代表に選ばれた木村選手の声をお届けします。

Q. 代表に選ばれてどんな気持ちですか？

一つの夢が叶ったので、素直にとてもうれしかったです。それに、自分の力がどのくらい通用するのかわかるチャンスができたのでよかったです。

Q. 大会に向けての意気込みを教えてください。

初めての舞台なので緊張せず、楽しく挑戦したいと思っています。そして、少しでも他国の選手に勝てるように頑張りたいです。

Q. ジャンプ競技を始めたきっかけは？どんなところが魅力ですか？

兄がやっているのを見て、カッコいいと思い、自分もやってみたいと思いました。空を飛ぶというところが一番の魅力です。

Q. スキーの楽しいところは？

ジャンプでもクロスカントリースキーでも、努力すれば結果が出て、どんどんうまくなっていくところが一番楽しいです。

Q. スポーツ少年団で学んだことは？

競技面では、コーチの方々からアドバイスをもらい基本をしっかり学びました。生活面では、あいさつや礼儀など、人として大切なことをたくさん学ぶことができました。



1月12日～15日に花輪スキー場で開催された「秋田県中学校スキー大会」では見事優勝

Q. 強さの秘訣を教えてください。

自主練習です。ワールドカップなど、強い選手の動画を見ながらイメージトレーニングをしています。他には、体幹トレーニングなどを取り入れて体を鍛えています。ご飯もいっぱい食べています。

Q. 将来の目標はありますか？

オリンピックに出場し金メダルをとることを目指しています。